

国際交流事業報告書

青森県立保健大学・Villanova 大学

2024



目次

I. はじめに	1
II. 令和6年度実施状況	
1. プログラム概要	2
2. 主な交流事業の内容	
1) 5月13日(月)	3
青森県立中央病院見学	
講義「日本の看護基礎教育」	
歓迎会	
2) 5月14日(火)	6
授業への参加「認知症高齢者ケア」	
講義「介護保険制度」と介護老人保健施設・通所の見学	
学生間交流 Dinner	
3) 5月15日(水)	9
小児学実習の紹介と幼稚園見学	
III. 学生ボランティアの感想	10

I. はじめに

未だかつて経験することのなかった、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で、一時途絶えておりました、ヴィラノヴァ大学との交流が再開できましたこと、たいへん喜ばしい限りでございます。

来青にあたり、飛行機の運行の関係で到着が遅れ、多少のスケジュールの修正がありましたが、無事にお越し下さり、ほっと安堵したことから今回の交流事業がはじまりました。本学への受け入れにあたっては、看護学科のみならず、他学科を加えた学生諸君が、ボランティアとして知恵を出し合い、工夫をしながら歓迎の準備を整えてくれました。そのおもてなしの精神の一端に触れ、企画してくれた学生たちをととても頼もしく感じたところです。

到着後の初日の歓迎会では、学生間、あるいは教員間で、楽しく、美味しく、カジュアルに交流させていただきました。両大学の学生たちの笑顔とはじける声を聞きながら、異なる国や文化を相互に理解し合うことは、直接交流することに勝るものはないのではないかと再認識するに至りました。

ヴィラノヴァ大学の参加学生の皆さんが、青森で経験した、日本の医療の現状や、看護教育の実際に触れる中で、自国のみならず異文化の理解につながったとしましたら、私たちとしても、この上ない喜びであります。

さらに、今後、保健医療福祉に携わっていくであろう保健大学の学生たちが、国際化や異文化の理解を深めて、自分たちができる国際貢献とは何かを考え、将来実践するきっかけとなればと願っているところです。

最後になりますが、ご引率いただきました、ヴィラノヴァ大学の先生方、このたびはありがとうございました。また、看護学科の国際交流推進委員会の先生方をはじめ、健康科学総合教育部門の川内規会先生、小笠原メリッサ先生、ホーン・クリストファー先生、キャリア開発研究推進課前田輝和さんが、学生企画のサポートおよび、国際交流事業の運営を支えてくださいました。ここに、お礼を申し上げます。

看護学科長
清水健史

II. 令和6年度実施状況

1. プログラム概要

受け入れ期間：令和6年5月13日（月）～15日（水）3日間

来学者：学生7名、引率教職員3名 計10名

スケジュール

月日	曜日	時刻	内容
5月13日	月	12:45-15:00	青森県立中央病院見学 企画・同行教員 大崎瑞恵, 千葉武揚
		16:00-17:30	講義「日本の看護基礎教育」 講師 小林昭子
		18:00-20:00	歓迎会
5月14日	火	9:00-10:10	グループワーク 担当 小野恵子
		10:20-11:30	授業参加「認知症高齢者ケア」 担当 出貝裕子
		12:45-14:00	講義「介護保険制度」 講師 小野恵子
		14:20-15:50	青森ナーシングライフ見学 企画・同行教員 小野恵子, 出貝裕子
		16:00-17:30	振り返り/Tea Time 担当 小野恵子, 丹野真理子
		18:00-	学生交流 Dinner
5月15日	水	9:30-10:00	発達援助実習（小児看護）の紹介 担当 谷川涼子
		10:00-11:30	たんぼぼ幼稚園見学 企画・同行教員 石切麻希子, ホーン クリストファー

*5月12日に青森到着予定であったが、アメリカからの飛行機到着遅延に伴い、5月13日昼青森到着となった。そのため、5月13日午前中に予定していた、学長訪問、キャンパスツアーが中止となり、Villanova 大学学生の紹介プレゼンは5月14日のプログラムに組み入れた。

2. 主な交流事業の内容

1) 5月13日(月)

青森県立中央病院見学

日時：令和6年5月13日(月) 12:45~15:00

場所：青森県立中央病院

概要：青森県内の地域医療の現状や専門領域の看護実践を理解することを目的に、施設見学を行った。はじめに、青森県立中央病院の特徴、救命救急センター、総合周産期母子医療センターの概要について、講義を受けた。その後、救命救急センターやドクターヘリ、新生児集中治療室(NICU)を見学し、看護の実際について理解を深めた。飛行機の遅延により見学当日の昼に東京から新青森駅に到着し、そのまま病院に向かうというスケジュールの中でも、疲れた様子を見せず熱心に説明に聞き入り、活発な質問が出され、理解を深めていた。



講義「日本の看護基礎教育」と学長ご挨拶

日時：令和6年5月13日（月）16:00～17:30

場所：青森県立保健大学 A棟 110 教室

概要：米国看護学生に対し、看護学科基礎看護学領域の小林昭子講師が『Fundamental Nursing Education in Japan (History to the Present)』のテーマで講義を行った。看護の変遷や日本での看護の発展、日本や本学における看護基礎教育の現状等について紹介した。米国看護学生からは、看護師になるための学費や、大学卒業後の看護師の給料等について質問があり、ディスカッションを行った。日本着の飛行機遅延にて、初日午前の予定であった学長室表敬訪問ができずに午後スケジュールから開始となったが、講義が終わった頃、吉池信男学長が、教室訪問されて、歓迎のお言葉を述べられた。急遽のスケジュール変更で、長旅の疲れがある中、学長からのねぎらいのお言葉で、笑顔で初日の講義を終えた。



歓迎会

日時：令和6年5月13日（火）18:00～

場所：お好み焼き道頓堀

概要：初日の夜は歓迎会を開催し、総勢32人が参加した。日米混合のグループとなりお好み焼きや焼きそばを楽しんでいたようであった。学生ボランティアの企画により、お好み焼きにまつわるミニ知識と共に、お好み焼きの作り方について英語パンフレットを準備しており、スムーズに交流が進んだ。教員は一足先に帰ったが、学生同士の交流を積極的に図り楽しい時間を過ごしていた。アメリカの学生にとっては、お好み焼きだけでなく、靴箱や掘りごたつ式の座席も新鮮だったようである。



2) 5月14日(火)

授業への参加「認知症高齢者ケア」

日時：令和6年5月14日(火) 10:20~11:30

場所：青森県立保健大学 A棟 112教室

概要：看護学科と社会福祉学科が履修している認知症高齢者ケアの講義に参加した。最初にヴィラノバ大学学生が、アメリカの看護教育と学生生活についてパワーポイントや動画を使って紹介した。特に学生生活については、朝起きてから授業を受けたりランチしたりという1日の楽しい動画で、素敵な学生生活であることが伝わってきた。

その後、グループに分かれ、お互いの国の認知症施策や認知症者の暮らし、イメージについて情報交換した。英語が充分話せなくてもスマホのアプリを使いながら、頑張っている姿があちこちで見られた。早々にうちとけ記念写真しているグループもあり、活発に交流していた。



講義「日本の介護保険制度」と介護老人保健施設・通所の見学

日時：令和6年5月14日（火）9:00～10:10, 12:45～17:30

場所：青森県立保健大学 A 棟 110 教室,

介護老人保健施設青森ナーシングライフ, 青森ナーシングライフ通所リハビリテーション

概要：2 日目研修のメインは、介護老人保健施設と通所リハビリテーションの見学とした。

見学前に、看護学科在宅看護学領域の小野恵子准教授が日本における介護保険制度の講義とグループワークを行い、介護保険制度を利用した施設入所と在宅療養者の通所の違いや、施設や在宅で看取りができる環境について学びを深めた。見学研修では、訓練室でのリハビリテーション・入浴施設の矢田前温泉や機械浴の実演・看護師の医療処置ケア等の見学のみならず、通所レクリエーションの1つである習字レクの参加をした。また、スタッフから老健の役割・看護師の役割等のお話を聞くこともでき、ディスカッションを深めた。通所を終えて自宅に帰られる在宅療養者の送迎も見学した後、大学に戻り、Tea Time に振り返りを行った。



学生間交流 Dinner の様子

日時：令和 6 年 5 月 14 日（火） 18:00～

場所：青森県立保健大学 コミュニティーホール



3) 5月15日(水)

小児学実習の紹介と幼稚園見学

日時：令和6年5月15日(水) 9:30~11:30

場所：青森県立保健大学 A 棟 110 教室, たんぼぼ幼稚園

概要：Villanova 大学の学生に対し、看護学科小児看護学領域の谷川涼子教授が、発達援助実習(小児看護)の概要を説明し、臨地実習に向け、バイタルサイン測定や身体計測、点滴の固定など、モデルを用いて演習を行っている様子を動画で紹介した。その後、青森市内の就学前施設の一つであるたんぼぼ幼稚園の見学を行った。園内を見学した後、本学の語学教員ホーン・クリストファー助教が講師を務める英語教室に参加した。アルファベットや色に関する英単語を勉強した後、色探しゲームを行い、園児さんと Villanova 大学の学生はすぐに打ち解け、競い合いながら色を探して楽しんだ。質問コーナーでは、「どんな動物が好き?」「飛行機でどれだけの時間がかかるの?」など、園児さんが考えた質問に Villanova 大学の学生が答え、Villanova 大学の学生が考えた質問に園児さんが答えるなどして交流を深め、園児さんの元気な可愛らしい姿に、終始笑顔が絶えなかった。



Ⅲ. 学生ボランティアの感想

ジェスチャーやスマホの画像検索なども駆使して、コミュニケーションをとりました。また完璧な英語ではなくても、分かり合おうとする姿勢や雰囲気でもとなく通じ合えたりしました。とにかく楽しかったです。自分も日本の文化と向き合い直せたり、一緒に趣味を伝え合ったり、本当に楽しかったです。音楽は世界共通だなと思いました。またウェルカムパーティーではそれぞれの注文したものをシェアしたり、その場にいるだけで楽しかったです。(社会福祉学科)

自分と同じ年の海外の人と初めて関わることが出来て、とても良い経験がだったと思います。このような機会を提供して頂きありがとうございます。授業があったので仕方がないとは思いますが、もう少し関われる時間があれば嬉しかったです。ありがとうございました。(看護学科)

ペンパルを実施して英語でメールを送る練習をすることができました。また実際にペンパルの学生と昼食を一緒に食べて直接話すことで英語で会話する練習になりとても良い経験になりました。日本国内にいると同じ世代の外国人と話すことはほとんどないので、ボランティアに参加することができてよかったです。(看護学科)

文化の違う方々と交流するのは良い経験になった。とてもリアクションがよく準備した甲斐があったと思った。しかしながら、それと同時に自分の英語力のなさを感じた。もっと英語ができたら楽しいだろうなという悔しさを感じた。(社会福祉学科)

ヴィラ/ヴァの学生と交流できて本当に楽しかった！

特に、リーダーが出来たことはとてもやりがいがあり、自分の成長に繋がった

ただ、welcome party と dinner に関するイベントだけでなく、他のイベントの準備においても誰か1人に負担が偏りすぎる事が見られた

対策として、ボランティアのメンバーは必ずどこかの企画には入らないといけなと言った約束事を作った方が良くかもしれない

また、一般の学生がボランティアメンバーではないからと、留学生に話しかけに行きづらくなっている知り合いが数人いた

何か話せるようになるきっかけを作ってあげたいなという気持ちもあったが、正直先生に途中参加の直談判しにくる子がいなかったならそれまでだったんだなと感じた(看護学科)

1日目から留学生は積極的にコミュニケーションを取ってくれた。私たちも英語を一生懸命話すが、留学生も一生懸命聞こうとしてくれて翻訳アプリも使いながら1日目からすごく仲良くなりました。

認知症高齢者ケアの授業で、プレゼンを発表してもらい、すごく楽しそうな大学生活を送っていて憧れるような素敵な動画でした。日本とアメリカの医療や看護師は制度や経済面など大きく異なることがあり、お互いびっくりしていました。

ランチもうどんやカレー、ラーメンなどをシェアして楽しんでいました。

ティーでも話を弾ませながら手巻き寿司やうどんを楽しみ、折り紙やけん玉、追加で知育菓子など日本の文化に触れてもらい、何もかも新しく楽しんでくれました。

すごく短い時間でしたが、積極的に話そう！と思い、サラサラ難しいことを言うことよりもシンプルな言葉で伝わるように抑揚をつけて話すということが身についた気がします。

すごく充実した3日間を過ごせました。

今でもやりとりは続いているので、素敵な友達ができていい刺激になっています。(看護学科)

ヴィラバ大学の学生との交流を楽しむ中で、自分の語学力を確かめる機会になった。英語で日常会話をするのは普段なく、楽しかった。また、食事や遊びから日本の文化を楽しんでもらえたことが嬉しかった。他国の学生の価値観を知ることができ、勉強になった。3日間の短い時間ではあったが、別れを惜しむほどに交流を深められたことはお互いの誇りだと思う。(社会福祉学科)

国際交流事業報告書
青森県立保健大学・Villanova 大学 2024

発行年月日 2024 年 9 月 6 日

発行者 国際交流推進委員会 (看護学科)

発行元 青森県立保健大学

〒030-8505 青森県青森市浜館間瀬 58-1